

日本女子大學校設立の趣旨大要

日本女子大學校設立の趣旨大要

緒言 女子は國民の一半を組成する者にして其賢愚智鈍の社會國家に及ぶ影響の深且大なる尙に世人の想像以外に在り女子教育の振否は邦家汗隆の由て岐るゝ所なりと謂ふ亦過言に非ざるあり然るに其普及發達の現状たる國家の運命を托するに足らざるものあり而かも尙之れが進歩改善を謀る者寂として聞ゆるなきは豈に明治聖世の一大恨事に非ずや是れ吾人が敢て天下の同志よ訴へ日本女子大學校なるものを創設し女子教育の發達改善普及を催進し以て國運振張の一助に供せむと欲する所以なり

方針 本校の執らむとする所の女子教育上の方針は第一に女子を人として教育し第二に婦人として教育し第三に國民として教育するに在り女子教育の方法を觀るに或は女子を器械視し若くは藝人視し隨て目前實用の知識藝能のみを授け殆ど人たるの教育に注意せざるが如きものあり抑も人たるの教育とは心身の能力を展開せしめ圓滿完備の域に進め如何なる境遇に處し如何なる職業に従ふも人として必ず缺くべからざる資質を修養せしむるに在り女子は其心身の構造社會の體制上より女子の盡すべき自然の天職なるものあり其妻賢母たるべきこと是れなり吾人は殊に此點に向て力を傾注せむと欲す女子も亦國家の臣民たり宜しく國民たるの觀念を興へ一個國民として能力を備へしめざるべからず本校の教育法其基礎を此三點に置かむとするもの偶然に非ざるなり

日本女子大學校



本校稱して大學校と云ふも其實本表に示せるが如く初等教育あり中等教育あり高等教育あり或は普通科あり専門科あり高低難易相合して一校を成すものにして唯高等教育のみを目的とするに非ず吾人の主眼とする所は下幼稚園より上大學部に至る迄首尾の系統整頓せる教育組織を一校内に設け吾人の執る所の特殊の教育主義及方法を實施し勞ら本邦女子教育改善の方法を研究實驗し以て本邦女子教育界の中心たらむことを期するに在り然れども社會需要の緩急に依り先づ高等女學校に着手し順次基金の増加と校務の進捗に應じ上下に擴張せむと欲す而して大學部程度の如きは當分高等女學校卒業後三年以内に卒業するを得るに止め本邦現時の社會及女子に適合するを以て標準とし過度の高等教育に馳するが如き弊を避け徐々其實効を擧げむことを期す彼の歐米諸國に行はるゝ女子教育法を直に採りて之を我邦に施さむとするが如きは吾人の執らざる所にして吾人は本邦の女子に適する所の教育を授けむと欲す雖然吾人は往々に泥古守舊を以て主義とする者に非ず過去に顧み現在に照らすのみならず亦大に將來に慮り以て中正適實なる進歩的女子教育を施行せむと欲す加之吾人は體育を重むじ過度の體育健康を阻害するの弊を避け個人に適切なる教育を施し德育は我邦固有の道徳に依るべきも文明諸國に於ける進歩の成績は之を撰擇取捨して稱ふ所あらむと殊に寄宿舎は家族制に依り有徳の婦人を舎監に聘し或は教員の家族を校内に居住せしめ以て生徒の管理訓育をして其家庭に在るの感あらしめん教職員選定に於ては殊に重きを人物に置き成可女子を採用

せむと欲す

資金 吾人の目的を完成せむとするには莫大の資金を要すべきも本校基礎の鞏固を得むが爲に先づ資本金參拾萬圓以上を募集し大凡拾萬圓を創立費に供し殘額を基本財産とかし其利息を以て本校の維持に備へ漸次資金の増加と事業の擴張とを謀らむと欲す然れども本校の設立に着手するは寄附金額十萬圓に達したるの曉に於てすへし而して凡て寄附金は第百十九銀行三井銀行第一銀行、鴻池銀行、住友銀行、及加島銀行に預け確實に保管せしめ法人設立の手續を了し法律保護の下に安固を得むことを期す本校財産の管理等は評議員なるものを設けて之を處理せむと欲す評議員の資格權限出金者の待遇等は追て定むべし

以上は日本女子大學校を設立せむとする趣旨の大要たり文略して意を盡さずと雖も幸に吾人の微意の存する所を諒せられ天下同志の翼賛を得本校設立の業を遂ぐることを得ば吾人發起人等の面目たるのみならず又多少國家に裨益する所あるべきなり

發起人

- | | |
|-------------|-------------|
| 候爵夫人 伊藤 梅子 | 男爵 九鬼 隆一 |
| 男爵夫人 岩崎 早苗子 | 男爵夫人 山田 清子 |
| 市島 德次郎 | 藏田 勘兵衛 |
| 磯野 小右衛門 | 伯爵夫人 松方 政子 |
| 蜂須賀 蘭子 | 松本 濱子 |
| 原 六郎 | 前川 慎造 |
| 演 岡 章子 | 近衛 貞子 |
| 時 任 爲基 | 鴻池 新十郎 |
| 土 居 通夫 | 侯爵夫人 西園寺 公望 |
| 殿村 平右衛門 | 男爵夫人 北島 三枝子 |
| 土 倉 壽子 | 男爵夫人 菊地 侃二 |
| 大 山 捨松子 | 男爵 三井 八郎右衛門 |
| 大 隈 綾子 | 三井 捨子 |
| 大 森 豊子 | 澁 澤 兼子 |
| 大 倉 徳子 | 澁 川 忠次郎 |
| 榊 山 登茂子 | 芝 川 又右衛門 |
| 川 崎 芳藏 | 伯爵夫人 土 方 龜子 |
| 高 島 春子 | 廣 瀨 宰平 |
| 田 中 市兵衛 | 廣 海 仁三郎 |
| 田 村 太兵衛 | 廣 岡 久右衛門 |
| 田 邊 貞吉 | 廣 岡 淺子 |
| 成 瀬 仁藏 | 森 村 市左衛門 |
| 村 山 龍平 | 周 布 貞子 |
| 内 海 千代子 | 砂 川 雄峻 |
| 浮 田 桂造 | 住 友 吉左衛門 |
| 右 近 權左衛門 | |
| 野 崎 武吉郎 | |

附言

一 寄附金は東京にては會計監督澁澤榮一氏大阪にては同住友吉左衛門氏の名宛にて創立事務所より送附を乞ふ

但し郵便爲替にて御送附の方は東京は飯田町郵便支局大阪は中の島郵便本局渡り御取組を乞ふ

一 寄附金は受取次第會計監督の名を以て受領證を呈す

一 創立事務に關する通信等は凡て左の兩所に御送附を乞ふ

大阪西區北江戶堀一丁目三十番邸日本女子大學校創立事務所
東京神田區一ツ橋通帝國教育會内日本女子大學校創立事務所